

赤ちゃんのきこえの検査（新生児聴覚検査）について

難聴は目に見えないので気づかれにくいですが、1,000人に1～2人の赤ちゃんが生まれつき耳がきこえにくいとされています。

赤ちゃんは、生後まもなくから「見る」、「きく」、「さわる」などの感覚を通して周囲の刺激を受け取りその意味を理解し周囲とのコミュニケーションを育み成長していきますが、もし聞こえにくいことに気づかずにいると、このようなコミュニケーションが育ちにくくなります。

そのため、早く発見して、適切な援助がなされることがお子さんの成長のためには大切です。

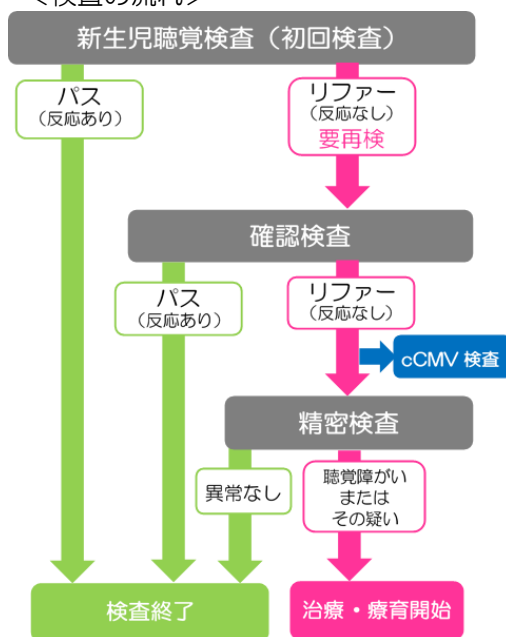
Q どんな検査ですか？

赤ちゃんが眠っている状態で、専用のイヤホンをつけて小さな音を聞かせ、その反応をみるものです。数分で安全に行える検査で、痛みはまったくありませんし、副作用もありません。また、薬も使いません。検査結果は、「パス」「要再検（リファア）」のいずれかで、お産の入院中にお知らせします。

「パス (pass) とは、検査を受けた時点では、新生児聴覚検査を一応通過したということです。

「要再検 (refer)」とは、より詳しい精密検査を受けていただく必要があるということです。聴覚障がい診断されたということではありません。

<検査の流れ>



Q 検査の結果が「パス」だったときは？

現時点で、お子さんの耳の聞こえに問題はありません。お子さんの耳の聞こえの発達を継続して見守っていくことが大切です。

この検査では、出生後の中耳炎やおたふく風邪などの感染症が原因による聴覚障がいや、徐々に発現する聴覚障がいを発見することはできません。また、検査の精度等の理由でまれに、聴覚障がいがあっても発見されない場合もあります。

子どもの成長や発達は一人ひとり違います。耳の聞こえだけでなく、お子さんの発達の全体を含めて見ていくことが、健やかな成長を見守る上でとても大切なことです。

心配な時は、市町村の保健師等にご相談ください。

Q 検査結果が「要再検」だったときは？

専門の耳鼻咽喉科で、より詳しい検査を受けていただくことになります。

生まれたばかりの赤ちゃんは耳のきこえが正常でも耳の中に液体が残っていたり、脳の発達が未熟なために、新生児期の聴覚検査にパスしないことがあります。また、検査のときに泣いたり、動きすぎたりしてうまく判定ができなかった可能性があります。

詳しい聴覚検査では、お子さんの発達を見ながら時間をかけて慎重に判断しますので、専門の耳鼻咽喉科医のいる医療機関をご紹介します。

また、「先天性サイトメガロウイルス感染症（cCMV）」を原因とする先天性難聴の場合、早期診断、早期治療によって聴覚や発達面の改善が期待できる場合もあります。診断には、生後21日以内の検査が必要であることから、「要再検」となった時点で検査のご案内をさせていただきます。

鳥取県きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』では、要再検となったお子さんの相談をお受けしていますので、お気軽にご相談ください。

鳥取県きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』

『きき』は、きこえない子ども、きこえにくい子どもと家族をサポートし、関係機関の連携拠点として鳥取県が委託設置したセンターです。

『きき』では…

- 様々な御相談に対応し、必要な情報提供を行います。
- 早期の支援に繋がるよう、関係機関と連携してサポートします。
- きこえない・きこえにくい子どもの子育て経験者もいます。

<問合せ先>

住 所 〒680-0853 鳥取市桜谷173-21
* 中部、西部にも出張相談します。
電 話 0857-50-0170
FAX 0857-50-0176
開所時間 9:00~17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)
ホームページ <https://x.gd/tottorikiki>



検査について、ご不明な点がありましたら担当医または看護師にお尋ねください。

